

# せつびたちのお仕事 <sup>しごと</sup> ~心のふるさと館編~ <sup>こころ</sup> <sup>かんへん</sup>

そもそもだけど、「設備」ってなあに？

大辞林 第三版より

必要な <sup>たてもの</sup>建物・<sup>きぐ</sup>器具・<sup>そうち</sup>装置などを<sup>そな</sup>備え付けること。また、備え付けたもの。

来てくれるみなさんがふるさと館で<sup>かいてき</sup>快適な時間をすごせるために。  
大切な文化財<sup>ぶんかざい</sup>たちをまもるために。時には<sup>かんきやう</sup>環境をまもるために。  
ふるさと館では日々、色々な目的のために必要な設備たちがたくさん働いています！  
この<sup>じゆぎやう</sup>授業では、<sup>ふだん</sup>普段みなさんの目に<sup>ふ</sup>触れることはないけれど、<sup>えん</sup>縁の下の力持ちとして、  
しっかりとふるさと館を支えてくれている設備たちとその働きをご紹介します。

今回のテーマは、**外から見たふるさと館**。

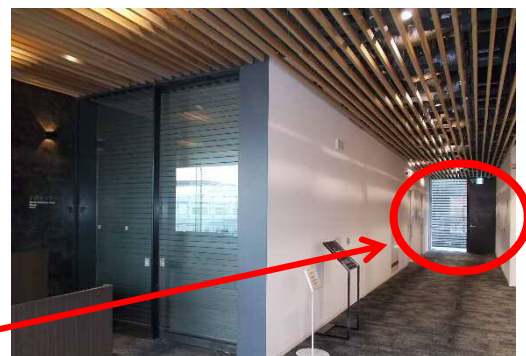
設備たちはふるさと館の外でもたくさん働いています。  
せっかくなので、いつもは入れない場所などを写真で紹介していこうと思います。

ではさっそく…ふるさと館を自転車おきばの方から見上げてみましょう。  
建物の一部分が黒い鉄板をかさねたようなカベになっています。  
これは、1階から屋上までつながっている<sup>ひじやうかいだん</sup>非常階段です。



この非常階段の上のほうに、  
一部分だけ、四角く切り取られた部分があります。  
さて、これは何のために開いているのでしょうか。

ちなみにこれは<sup>そうこ</sup>倉庫についている  
ふつうの<sup>まど</sup>窓です（笑）



中から見てみましょう。  
3階の<sup>きかくてんじしつ</sup>企画展示室の<sup>おく</sup>奥、  
トイレを通り過ぎたろう下のつきあたりのドア。  
これは<sup>ひじやうかいだん</sup>非常階段につながるドアになっていて、  
ふだんはカギがかかっていて出られません。

ここを開けると、さっきの四角く切り取られた部分の<sup>うらがわ</sup>裏側になります。



避難器具

さあ、なんのために開いているのか。  
これがヒントです。  
わかりましたか??  
そうです、  
ここは、火災や災害の時につかう避難口です!!  
火災や災害のときはエレベーターがつかえないの  
で、非常階段やこの避難器具を使って避難します。

ちなみに、ここから下を見下ろすとこんな感じ。→  
…3階は、なかなか高いですね。

ここから避難器具を使って降りていくのはとっても勇  
気がいるかもしれませんが、ちゃんと非常階段もあります  
のでご心配なく!



3階は企画展示室の奥、トイレのそばに避難口があるんだな、とおぼえておくと、い  
ざというときに役立つかも。ちなみに2階もトイレのそばが非常階段につながるドアに  
なっています。

もし、ふるさと館にいる時に災害が起こった場合は、スタッフの指示にしたがって、  
落ち着いた行動をお願いします!!

それでは、ふだんは入ることのできない非常階段をさらにのぼってみましょう。



非常階段をかこんでいる  
この黒い鉄板を重ねたようなカベ、  
雨や風をある程度防いでくれるのに  
光は入ってくるというスグレモノ。  
ちょっと写真では見切れていますが、  
普通のカベにはさまれてうす暗くなりがち  
な方には、人が通ると自動で電気がつき、非常  
時でも安全に避難できるようになっています。  
どんどんどんどんのぼっていくと…

さあ、<sup>おくじょう</sup>屋上に<sup>とうちやく</sup>到着しました！

そこに広がるのは・・・

四王寺山までみわたせるいい<sup>けしき</sup>景色！！

でも、風が強い日はおっこちそうで少し  
こわい。



ちなみに、この景色を<sup>さつえい</sup>撮影している場所は、  
下から見るとここらへんになります。

そして、この屋上にこそ、ふるさと館を支える設備たちがたくさんいるのです。

たとえば・・・

<sup>はつでんそうち</sup>発電装置や<sup>くわ</sup>電気を館内のいろんな場所に配る<sup>おんど</sup>電気設備、<sup>しつど</sup>空気の温度や<sup>ちようせい</sup>湿度などを調整  
してくれる<sup>くうきちようわき</sup>空気調和機、<sup>きかい</sup>機械を冷やして<sup>に</sup>熱を逃がすための<sup>くうれい</sup>空冷ヒートポンプチラーなど  
など、ほかにもたくさん。

色々な<sup>やくわり</sup>役割を持つ設備たちが<sup>せいじよう</sup>正常に動いてくれているかきちんと確認するのも、先生たちの大事なお仕事なのです。



太陽光発電パネル  
1F 総合案内横のサイネージ  
で発電状況が見られます。



<sup>じゅへんでんせつび</sup>  
受変電設備

<sup>こうあつ</sup>高圧で引き込んだ電気を  
<sup>ていあつ</sup>低圧に変圧して館内に送  
ります。



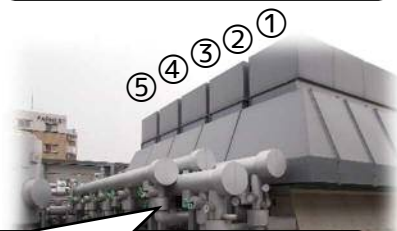
ヒートポンプ<sup>くうきちようわき</sup>空気調和機

家庭でいうエアコンの役割を  
しています。



いろんな設備が  
あるじょー！

大野ジョー



空冷ヒートポンプチラー  
5台連結！！



さて、屋上の設備の中から今回ご紹介するのは、うすいちよりゆうそう  
雨水貯留槽です。

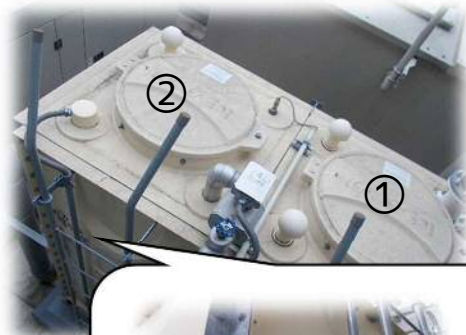
その名のとおり、雨水をためておくタンクです。

私たちは「うすいそう雨水槽」と呼んでいます。

雨水槽は、屋上からはしごをおりたところにあります。



これは、はしごをおりる途中から見た雨水槽。

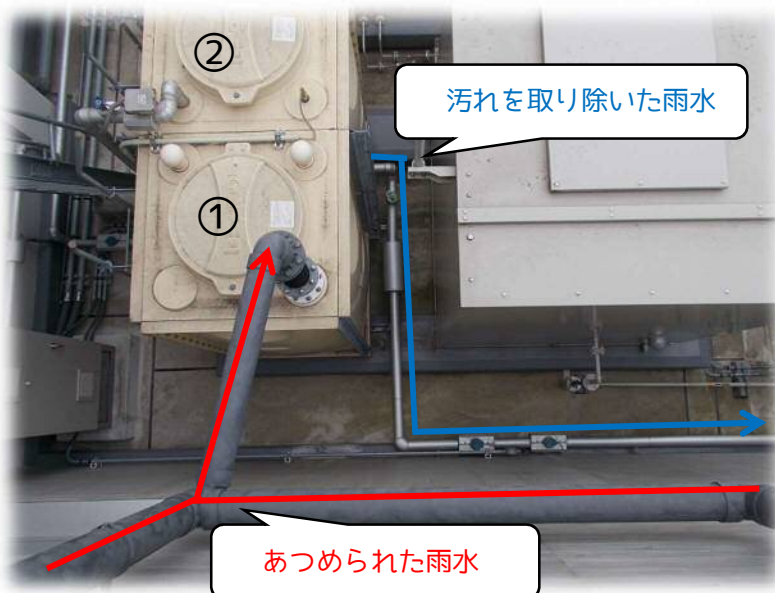


雨水槽は、①と②に槽が分かれています。  
なぜでしょう??

雨水にはPM2.5やこうさ黄砂などのよご汚れがふく含まれています。

雨水槽は、2つの槽を使って、まず、①の槽で汚れをしず沈ませて、そのうわず上澄みを②の槽に送り、②の槽で消毒します。そうして汚れをと取り除いたのぞ雨水は「ざつようすい雑用水」として青いやじるし(→)のパイプを通過して、非常階段の横を下までずっと流れていきます。

さて、流れていった雨水あらため雑用水はいったいどこに行くのでしょうか。



それでは、1階に降りてみましょう。  
ふるさと館のまわりには、いろいろな植物が植えられています。  
その植物たちの中に銀色の板がかくれています。



見えるでしょうか。  
「さんすいせん散水栓」と書いてあります。



ふたを開けてみると、中には水道の蛇口じゃくちのようなものが！  
そして、ふたの裏には、  
「いんりょうふか飲料不可 うすいさいりょうすい雨水再利用水」とかいてあります。  
そうです、ざつようすい雑用水になった雨水たちは、  
この散水栓からでてくるのです！！



この雑用水を何に使っているのかというと…  
ふるさと館のまわりの **植物たちへの水やり** のために使っています。  
水も大切な資源しげんなので、こうして雨水を再利用しているのです。



←水やりの時は、こうしてホースをつなげて使います。  
もしふるさと館の水やりを見かけたら、  
あ、雨水の再利用だ！と思ってください^^

この散水栓、ふるさと館のまわりに全部で4つあります。

4つ全部  
みつけられるかな??

雨水の再利用のほかにも、空調機から出た水の再利用などもしています。

そのあたりもまた紹介できたらなと思います。

それでは今回の授業はこのへんで！またお会いしましょう！！ (管理担当 永利&松山)